

フッ化物洗口により



秋田県の子どもたち(12歳児)のむし歯が
全国平均を初めて下回りました!



フッ化物洗口とは？

「フッ化物洗口」は歯を強くする成分(フッ化物イオン)を含む溶液で「ぶくぶくうがい」を1分間行うことによるむし歯予防法です。

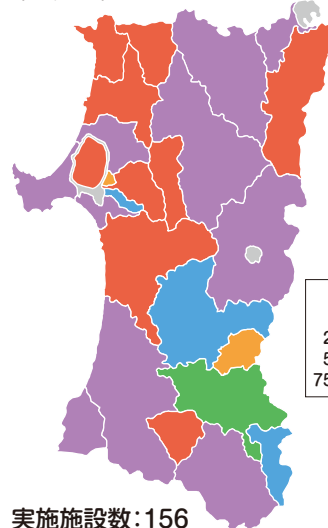


これまでの取り組み

子どもたちのむし歯が多い秋田県では平成19年度から市町村を実施主体として順調に拡大を続けてきました(右図)。幼稚園・保育園、小・中学校などでの実施人数は平成19年度の10,449人から平成28年度の53,815人と5倍以上に増えています。

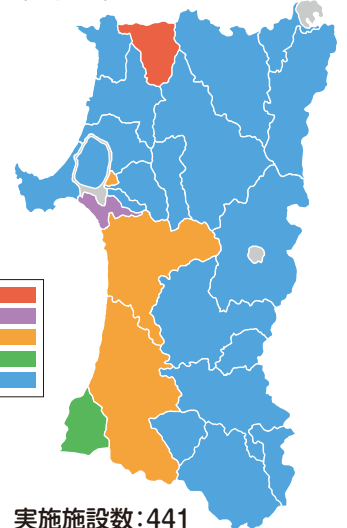
フッ化物洗口市町村別実施率(全体)

平成19年度

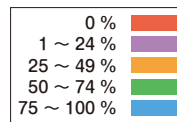


実施施設数:156
実施率:19.3%

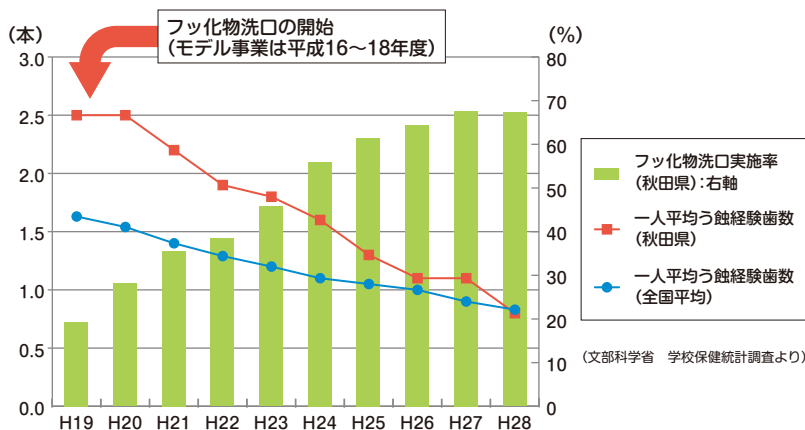
平成28年度



実施施設数:441
実施率:67.3%



12歳児1人平均むし歯経験歯数の推移



平成28年度に初めて全国平均を下回った



フッ化物洗口の効果

「ぶくぶくうがい」という比較的簡単な方法で、集団で確実に継続して実施できることから高いむし歯予防効果があり、このことは科学的にも証明されています。

実際に平成19年度には全国平均の1.5倍あった秋田県の子どもたち(12歳児)のむし歯の数(2.5本)は10年間で大きく減少し(0.8本)、全国平均を初めて下回りました(左図)。

それでも、フッ化物洗口はむし歯を完全に予防する魔法ではありません。これからも歯ブラシやデンタルフロス(糸ようじ)の使用、砂糖の摂取に気をつけるなど、家でできるむし歯予防法と組み合わせることで子どもたちのむし歯減少を目指しましょう。